

ISk 機械情報産業カレント分析レポート

中国四川省成都市のIT産業の概況と日系IT企業のビジネスチャンス

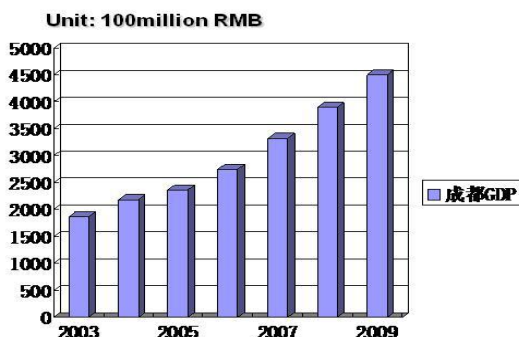
筆者は、8月9日から13日まで中央大学の調査ミッションに参加し、四川省成都市で実態調査を行った。本レポートでは、成都市の投資環境、製造業、特にIT産業の実態調査から、日系IT企業の事業活動のヒントを導き出したい。

◆成都市の概況

成都市は、四川省の省都で、副省級市であり、9つの区、4つの市、6つの県を管轄している。面積は12,400k㎡で、人口は約1,400万人である。成都市は中国の西南部にあり、恵まれている自然的条件から「天府の国」ともいわれている。ビジネス環境も整っており、『フォーチュン (fortune)』（中国語誌）に大陸最高なビジネス都市のトップテンにランクされている。

2009年の成都市のGDPは4,502億元で、前年比14.7%成長となった。1人あたりGDPは18,659元(約23.3万円、1元=12.5円換算(2010年8月17日時点))である。

図表① 成都市のGDP推移



出所) 成都市投資促進委員会資料。

同年の輸出入総額は178.6億米ドルである。成都市への外資の直接投資額は28億ドルである。2009年年末時点で、世界トップ500社のうち169社が成都に進出している。

成都市の投資環境は、まず豊かな自然環境が挙げられる。成都市は「天府の国」と称されるとおり、洪水も旱魃も少なく、森林の占める面積は36.8%、年平均気温は17.2℃である。成都市は、「来たら二度と離れたくない都市」と「最も住みやすい都市」だといわれている。この言葉は、今回のヒアリング先で多くの方から聞くことができた。「2009中国最具幸福感城市調査報告」(『瞭望東方週刊』、WEB版)などのランキングでも上位に位置づけられている。

次に、市場規模とその潜在成長性であるが、成都市は中国西部最大の貿易中心地で、その市場は四川省全体及び西南地区の6つの省にわたる約2.5億人の人口に及んでいる。2009年の全市の社会消費品小売総額は1,950億元、前年比伸び率20.3%で、2012年になると全市の社会消費品小売総額は3,000億元を超え、年平均18%以上成長すると見込まれている。

成都市は、中国工業配置の戦略的重点都市であり、既に電子情報、航空・宇宙飛行、機械、自動車、生物医薬、食品、冶金建材などの総合的工業体系を形成している。特に、インテル、中芯国際(SMIC)といったIC企業が成都市に進出している。

成都市は、人的資源も豊富である。大学は42校あり、在学学生は約57万人、うち修士と博士課程の院生が6万人おり、新卒学生数は年間10万人を超える。

また、行政サービスは模範的であり、効率が非常に高い。成都市は、2007年に中国都市管理進歩賞を受賞し、同年に全国初の「国家知的財産権工作模範都市」となった。さらに、2008年には「全国出版権模範都市」となっている。

成都市の工業園区としては、「成都高新技術産業開発区」と「成都経済技術開発区」の国家級開発区が2つある。

物流網も整備されつつあり、成都保税物流中心が2010年1月に国家に承認され、3月末に正式に運営を開始している。これにより企業は、国際中間転売、中継貿易などの業務を展開することができる。

成都市は「1つの区に主要産業1つ配置する」という産業企画を制定し、13の市級戦略機能区に区分けして区域間の産業が重ならない発展を推し進めて、総合的競争力を持った西部最大の都市を目指している。

◆成都市のIT産業の概況

成都市は、IT産業で10の国家級基地に指定されており、中国西部で最も競争力と吸引力のあるIT産業集積地である。

成都市のIT産業には、IC産業、ソフトウェア産業、通信産業、電子部品産業、太陽電池産業、光電ディスプレイ産業という6つの産業クラスターがある。

成都市では、「電子情報産業規則」(IT Industrial Planning)を策定中で、そこには発展目標として、2012年までにIT産業の売上を2,960億元、年平均成長27%以上(その内訳はソフトウェア及信息服务業で1,560億元、IT製造業で1,400億元)を目指している。

◆成都市のIT産業発展の可能性

成都市の弱みについて、今回の現地調査で指摘が多かったのが、沿海部までの「距離」である。輸出を念頭に置いたときには物流インフラと輸送コストの観点から企業が進出するには容易ではない。しかしながら、内陸部市場、特に成都市を中心とした6省、2.5億人の市場への現地販売を念頭に置くのであれば、現地生産も十分に可能性があると考えられる。一方、成都市の強みは、人件費の安さと人材流動率の低さである。成都市のIT産業の労働コストは沿海部に比べて総じて20~30%程度は低く、人材の流動率も8%程度と低い。

図表② 成都市のIT産業の労働コスト

行业 professions	電子工程 IT	ソフトウェア Software	医薬 Medicine	機械 Mechanical
低位数 Low	1558	1901	1847	1878
中位数 Median	3577	5049	4195	3386
高位数 High	10116	11235	10010	9953

出所) 成都市投資促進委員会資料。

周知のとおり、沿海部では、労働争議が相次ぎ、最低賃金が引き上げられるなど人件費が上昇していることから、内陸部へ進出する企業、進出を検討する企業が増えている。特に、低賃金労働と豊富な労働力を求めて沿海部に多く立地している台湾系IT企業や日系IT企業では検討が始まっている。成都市でもこの動きを歓迎していることが今回の現地調査から感じられた。足元の事業環境からは、成都市の強みが前面に出されているといった印象は否めないものの、成都市がIT産業で飛躍する時期にあることは確かであり、日系IT企業にはこのチャンスはどう活かすかが問われている。

(調査研究部 近藤信一)